

エス・ピー・アイ

# What's "SPI" ?

## SPIで何がわかる? SPIで何をする?

SPI(エス・ピー・アイ)とは、現在、多くの民間企業の採用試験で取り入れられている適性検査です。SPIにはいくつもの種類があり、高校生や大学生、中途採用者など受検対象によって、また、仕事内容に応じて使い分けられています。

SPIは、仕事をする上で必要となる基礎的な知識・能力だけでなく、仕事への意欲や態度などの適応度がどのくらいあるかを見ることができる検査です。SPIを実施した企業には受検者一人ひとりについての報告書が送られ、企業はその人を採用するかしなないかを判断する資料の1つとして活用します。

## SPIとはどんな検査?

SPIは大きく分けて、**能力検査**と**性格検査**で構成されています。能力検査はさらに、**言語分野**と**非言語分野**に分かれます。

能力検査	言語分野(国語的な分野)	30分/50~55問程度
	非言語分野(算数・数学的な分野、論理的思考の分野)	40分/40問程度
性格検査		40分程度

### 能力検査

高校1年生までの国語や算数・数学の知識を使って解ける問題ですが、

- ①一般的な知識の量だけでなく判断力や応用力も試される
- ②制限時間の割に問題数が多い
- ③学校の授業や試験ではあまりなじみのない特殊な設問形式の問題が含まれている

といった特徴があります。初めて見る問題は、焦ってしまい思うように解答することができないかもしれません。そのため、問題集などであらかじめどのような問題が出されるのかを確認し、練習しておくといでしょう(詳しくは裏面で)。

### 性格検査

**行動的側面**(社交的で行動力のあるタイプか、物事を深く考え粘り強いタイプか)・**意欲的側面**(難問や競争的な場面向き合うパワーをどの程度持っているか)・**情緒的側面**(行動に表れにくい内面的な気持ちの動きはどうか)・**社会的側面**(難しい状況や困難な課題に直面した時に、どのような行動をとりやすいか)を測ります。



# 性格検査

40分程度

質問項目は、下の設問例のように、2つのタイプに分かれています。どちらも、4段階の中から自分に近いと思うものを選んで回答していきます。回答時間に対して質問項目数が多いので、すべての項目へ回答するには深く考え込まずに次々と回答していく必要があります。

就職試験の一つと考えると、どうしても自分をよりよく見せたいと思ってしまう人がいるかもしれません。しかし、SPIの性格検査では、**受検者が自分をよく見せようとする傾向をチェックする仕組みが導入されています。**ですから、自分を偽らず、正直に回答していきましょう。

## 性格検査 設問例

次の質問項目について、「あてはまらない(1)」「どちらかといえばあてはまらない(2)」「どちらかといえばあてはまる(3)」「あてはまる(4)」のいずれかで答えてください。

- ① 一度決めたことはやり遂げるほうだ。                      ① ② ③ ④
- ② 多くの人に会う集まりは楽しい。                      ① ② ③ ④
- ③ じっくりと考える仕事が苦にならないほうだ。                      ① ② ③ ④

次の質問項目のペアについて、ふだんの自分の考えや行動に近いものを、「Aに近い(A)」「どちらかといえばAに近い(A')」「どちらかといえばBに近い(B')」「Bに近い(B)」のいずれかで答えてください。

- ① A よく考えてから行動する。                      (A) (A') (B') (B)                      B 思いついたらすぐ行動する。
- ② A しぶとい。                      (A) (A') (B') (B)                      B さっぱりしている。



## SPI の能力検査では何点取ればよいのか？

能力検査には正答があるため、合格点が何点か気になる人がいるかもしれません。しかし、同じ企業でも年度によって募集人数や応募者数が異なり、また、企業が求める人物像も変わるので、〇〇点を取れば合格というような**一定のボーダーライン**はありません。

もっとも、能力検査は仕事をする上で必要となる基礎的な能力を測るものなので、できるだけ高得点をとれるように力をつけておくことが必要です。



# 能力検査

## 言語分野 30分／50～55問程度 5～6つの選択肢からの択一式

国語的分野に関する出題です。仕事をする時に必要となるコミュニケーション能力の基礎となる言語的理解力を測ります。

出題は、文章読解(文章を読んで、要旨や当てはまる接続詞を答える)や語句に関する問題(対義語や2語の関係について答える)などで、基礎的な語い力や文章理解力が試されます。

### 言語分野 問題例

**2語の関係** 太字で示された2語の関係を考え、同じ関係を表す対を作れ。

コート:防寒	カメラ:A 撮影	B レンズ	C 映写
	D デジタルカメラ	E 精密機械	

「コート」は「防寒」のために使用するものです。同じ関係を作るには、「カメラは～のために使用するもの」の「～」に当てはまる語を探せばよいことになります。この例では、太字で示された2語の関係は「**右側が左側の用途(使い道)**」です。

- A:○ カメラは撮影のために使用するものです。
- B:× レンズはカメラの部品です。
- C:× 映写とは映画などをスクリーンに映すことです。
- D:× デジタルカメラはカメラの一種です。よって、「含む・含まれる」の関係です。
- E:× カメラは精密機械の一種です。よって、「含む・含まれる」の関係です。

正答 A

### 勉強方法

言語分野の攻略には、漢字や熟語、語句の意味・用法を覚えることと、文章の要旨をとらえる力を付けることが大切です。まずは新聞や本などさまざまな文章を読んで語い力、読解力を養いましょう。

学校の授業や試験ではふれないような形の問題もあります。国語の問題集のほか、SPI対策用の問題集で演習を繰り返して、SPI独自の出題形式にも慣れておきましょう。

### これだけは押さえて！ 国語チェックリスト

↓苦手なものに☑を付けて、克服していきましょう。

<input type="checkbox"/> 対義語	<input type="checkbox"/> 熟語の意味	<input type="checkbox"/> 文章読解
------------------------------	--------------------------------	-------------------------------

## 非言語分野 40分／40問程度 8～9つの選択肢からの択一式

算数・数学的、論理的分野に関する出題です。企業ではさまざまな部署で統計的な処理・分析の作業が必要とされるため、非言語分野では、仕事に不可欠な数的処理能力や論理的思考能力を測ります。

出題内容は、**小学校～中学校+高校1年生レベルの算数・数学**の知識を使った基礎的な計算問題や文章題、推論などです。

### 非言語分野 問題例①

**料金計算** ある美術館の入館料は1人400円であるが、20人を超える団体の場合、超えた分について1割引となる。32人の団体の場合、入館料の総額はいくらか。

- A 8,120円      B 8,480円      C 10,200円      D 10,400円      E 11,520円  
 F 12,200円      G 12,320円      H A～Gのいずれでもない

20人を超えた場合、超えた分について1割引なので、入館料を20人以下と21人以上に分けて計算します。また、1割＝10%＝0.1なので、1割引の入館料は、 $400 \times (1 - 0.1) = 400 \times 0.9 = 360$  [円] となります。  
 1～20人： $400 \times 20 = 8000$  [円]      21～32人： $360 \times 12 = 4320$  [円]  
 したがって、32人の入館料の総額は、 $8000 + 4320 = 12320$  [円]

正答 G

### 非言語分野 問題例②

**推論** P、Q、Rの3個の箱がある。PはQよりも軽く、Qの重さはPとRの重さの和に等しい。このとき、次の推論ア～ウのうち、必ず正しいといえるものはどれか。A～Hから1つ選べ。

ア：RはQよりも軽い。      イ：QはPよりもRよりも重い。      ウ：PはQよりもRよりも軽い。

- A アだけ      B イだけ      C ウだけ  
 D アとイの両方      E アとウの両方      F イとウの両方  
 G アとイとウのすべて      H アとイとウのいずれも必ず正しいとはいえない

条件を「重」>「軽」で表すと、① $P < Q$ 、 $Q = P + R$ から①' $Q > P$ 、② $Q > R$ がわかります。次に推論ア～ウを同じように表してみると、ア： $R < Q$ から $Q > R$  (②)、イ： $Q > P$  (①')、 $Q > R$  (②)、ウ： $P < Q$  (①)、 $P < R$ から $R > P$  (条件からはわからない) となります。したがって、必ず正しいといえるのはアとイになります。

正答 D

### 勉強方法

問題例①のように、ほとんどの問題は順を追って丁寧に計算をしていけば解ける問題です。しかし、小・中学校で習った基本をすっかり忘れていると、結果に大きな差が出ます。下の表を参考に、不得意分野の基本知識をしっかり復習しましょう。

問題はある程度パターンが決まっていますが、問題例②のようなあまりなじみのない設問形式の出題もありますので、SPI対策用の問題集で演習を繰り返して、SPIの出題形式に慣れておきましょう。

### これだけは押さえたい！ 算数・数学チェックリスト

↓ 苦手なものに☑を付けて、克服していきましょう。

小学校	<input type="checkbox"/> 四則計算 (加減乗除)	中学校	<input type="checkbox"/> 方程式	SPI独自のテーマ	<input type="checkbox"/> 推論	
	<input type="checkbox"/> 小数・分数の計算		<input type="checkbox"/> 比と比例式		<input type="checkbox"/> 損益算	
<input type="checkbox"/> 時刻・時間の計算	<input type="checkbox"/> 連立方程式	<input type="checkbox"/> 年齢算				
<input type="checkbox"/> 平均	<input type="checkbox"/> 確率					
<input type="checkbox"/> 速さ	高校	※中学校からの続き	<input type="checkbox"/> 確率			
<input type="checkbox"/> 百分率 (パーセント)			<input type="checkbox"/> 順列			
<input type="checkbox"/> 比						

など